

## 子どもの頃に 両親の離婚を経験した女性が、 成人してから母親との関係に悩むケース

家庭問題情報センター 笠松 奈津子

家族のことで相談したいという、二〇代後半のあやさんは、遠慮がちに話し始めました。過去の自分の養育費を請求したいという気持ちの裏には、両親の離婚により自分が背負ってきた複雑な気持ちの精算を含んでいるようです。

**あ（あや）** 過去に請求しなかった養育費を今から請求することはできますか。

**力（カウンセラー）** 離婚時に養育費の取決めをしていなくても、子どもが未成年であり、養育費が必要な状況であれば、離婚後でも養育費を請求して取決めをすることは可能ですよ。

**あ** 成人になってからではできませんか。

**力** 成人でも、学生や、病気等のために働いて収入を得ることができない、自立して生活ができる収入がないような場合には、請求できる場合がありますね。

**あ** 私から親に請求したい養育費のことなのです。

**力** 現在のあなたご自身が生活に困窮しているのだとしたら、養育費ではなく、扶養の請求ということになりますね。

**あ** 今の生活費ではなく、過去の分を請求したいのです。

**力** 両親の離婚を経験されているのでしょうか。

**あ** そうです。私が小学生の頃に両親が離婚し、私は母と暮らしてきました。

母は父に養育費を請求しませんでした。私が高校生のときは、母が授業料は払ってくれていましたが、制服のほかに着るセーターとか、私が自分でアルバイトして買ったものも多かったのです。

**力** お母さんが働いて生活を支えていたのでしょね。高校生となると、教育費など負担は大きかったのでしょうか。

**あ** ……

**力** あなたご自身も勉強もあるし、部活や、お友だちとのつきあいもあったでしょう。アルバイトをしながら高校に通うのはたいへんだったでしょう。

**あ** ……正直言って、なぜ私だけが思いながら高校生活を送っていましたか。

**力** お父さんとは会っていたのでしょうか。いいえ、ずっと音信不通でした。

**あ** 成人してから一度会いましたが、一人暮らしのようでした。成人のお祝いをしてやりたいと言ってくれました。でも、身体をこわしているようで、収入もあるのかないのか、生活に余裕がないことは一目でわかりました。

離婚の原因は、母が他の男の人と付き合い出したのです。それで父は母を家から出したのです。私がいだったので。二人とも、どうしても一度やり直すことを考

えなかったのでしょうか。

しばらくして、母が私を連れにきました。母は男の人とは一緒に住みませんでした。母方の祖母がときどき泊まりに来てくれたり、私が祖母のところに泊まったり、祖母がいろいろ手伝ってくれました。だから私は母に反抗したりはしませんでした。でも、内心では、両親が離婚さえしなければという思いに駆られていたような気がします。そのうちに母は男の人とも別れたみたいでした。私は、専門学校に行き、就職しました。

そのころから、母の干渉がいやになり、そもそも母が原因を作って離婚したことが許せなくなりました。父に会いにいったのもその頃です。父は、離婚したことを「おまえには悪いことをした」と言っていました。

**力** お父さんの言葉が心に残っているのですね。

**あ** 正直、ほっとしたような、でも、それから養育費を支払ってくれればいいのにも思いました。

父の生活ぶりからは、過去の養育費の請求なんて現実的でないことはわかっています。だけど、納得できないのです。ずっとひきずってきました。

子どもの頃は、母も大変なんだと思って、

困らせないようにしてきました。でも、母もだんだん精神的に不安定になっていきました。気持ちの余裕がなかったのです。そんな母とはもめることばかりです。

それに、「あなたのためだけに精一杯やってきたのに」という言い方をされるとたまりません。だったら、父に養育費を請求すればよかったのに・・・でも母は、請求しようにもできなかったのです。

なぜこんなことになってしまったのか、そう思うことばかりです。おかしいでしょうか、そんなふうに考えるのは。

**力** だれにもぶつけることができない、あなたの思いですね。

**あ** 母とはいまだに対立するばかりですが、そこまでひどいことは言えません。今は私が出た働いているので母からは離れたのですが、母のしかけた網の中にいるみたいです。

**力** お母さんと適度の距離を保てないように感じますね。

**あ** 大人になってからの私は反発しているようで、甘えているのかもしれない。

子どものころに甘えられなかった反動なのでしょうか。

**力** 自分のことより、頑張っているお母さんを支えることを優先していたように感じますね。

**あ** そんなにいい子ではなかったし、母を支えてきたというほどの意識はないのですが、本音では満たされなかったのだと思います。

**力** お母さんには近いうちに会いに行かれますか。

**あ** なんとなく自分の気持ちに気づいてみると、会いに行きづらくなりますね。

でも、年を重ねた母と、このままの関係ではいけないと思うので、そのうちにちよつとだけ会いに行つて、ちよつとだけ話してみようかと思えます。

子どものときにやり残したことをしっかりとやり遂げて、乗り越えていくのは容易なことではないでしょう。言葉に出してみたことで、自分の気持ちを受け入れたように見えたあやさんは、行き詰ったらまた来るかもしれないと言つて帰っていきました。

